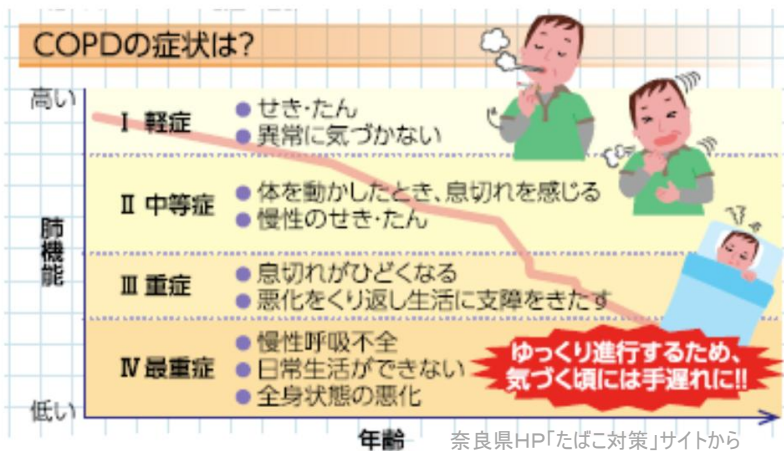


**週刊 タバコの正体**



坂道や階段で息切れがする。 急ぐと息切れがする。 セキが止まりにくい。セキ・タンが多い。

霞ヶ丘つだ病院HPから



タバコを吸い続けると、身体のさまざまな臓器や器官に悪影響を与えます。すでに、血管が痛むことはたびたび紹介してきましたので、それが“心筋梗塞”や“脳梗塞”などの原因となる事を知ってもらいましたね。

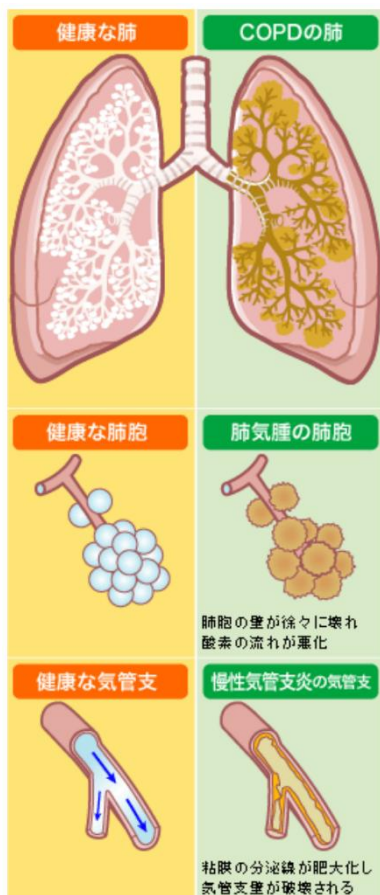
そこで今回は、タバコの煙が直接吸い込まれる肺の病気を紹介します。左図にあるような症状がある人は COPD (慢性閉塞性肺疾患) と呼ばれる病気かもしれません。

COPD の最大の原因はタバコで、患者の実に90%が喫煙者だと言われています。一番上のイラストのような初期症状では全く気付かない人が多いのですが、タバコの有害物質が何十年かか

けて少しずつ肺の中の“肺胞”や“気管支”を壊していきます(下図)。すると、上の表にあるように息切れがひどくなり(重症)、放っておくと日常生活ができなくなるほどの呼吸不全(最重症)に陥ります。

タバコと言えば肺ガンを連想する人が多いと思いますが、平成26年度の厚生労働省の調査によると、肺がんの患者は約14万人、対してCOPD は約26万人と COPD の方が2倍近く多いのです。そして、この約26万人は治療を受けている人の数で、治療を受けていない軽症や中等症の人は含まれていません。じつは、それらの人も含めると、なんと患者数は500万人を超えると推計されています。だから COPD は、かなり身近なタバコによる病気なのです。

タバコを吸い続けても、その影響は表面にすぐにはあらわれません。だから危機感を持つことが難しく、それがタバコの怖さなのです。何十年か後に「タバコさえ吸い始めていなければ・・・」と後悔することを思うと、今タバコに手を出さない事なんて、すごく簡単にできる事ですよ。



「eo健康」サイトから